

三増合戦

陣容を整えた北条方は、10月6日の明けがた志田、道城、町屋の原に兵を進め、ここに三増合戦は開始された。

はじめ、武田方の一部が山を登るのを退却と見間違えてしまった北条方は、残らず討ち取れとばかりに攻めた。武田方のしんがりを北条氏邦、綱成らの一団が攻め、激闘は北条方有利のうちに展開。武田方の侍大将浅利信種は、綱成の部下が放った鉄砲で胸を撃たれて戦死した。また志田原に向った氏照らの一隊は四郎勝頼、馬場信房らの陣地を攻撃。北条方は武田方を高地の下まで追いつめていった。

しかし、この時、先に中峠を登っていった山県昌景らの指揮する武田方の5千の精兵が山の向うで折り返し志田沢沿いに下ってきた。

これを機に、信玄の旗本が真正面から攻めかかったことにより、北条方は総崩れとなり、中津川を越え、半原山に逃げた。

北条氏照は味方総敗軍の中に踏み止まって奮戦していたが、馬が倒れ止む無く自刃寸前というところを家臣に助けられ、ようやく半原山へ脱出したという。

氏康の嫡男氏政以下の1万の本隊は荻野新宿まで駆けつけてきたが時すでに遅く、敗軍と聞いて小田原へ引き返した。

信玄は長追いをせず、軍勢をまとめて旧津久井町の串川から旧相模湖町の反畑に出て、ここで戦勝の式を行ない戦死者の供養をした。『甲陽軍鑑』によると戦死者は北条方3,269人、武田方900人とあり、戦いの激しさを示している。信玄は翌日甲府に向けて帰陣した。



三増合戦絵図 ■が武田方、■が北条方の陣立て
 ■馬場美濃守→馬場信房 浅利式部→浅利信種 山カタ→山県昌景
 ■北条陸奥守→北条氏照 北条上綱→北条綱成